

第6節 県内におけるばい煙発生施設数等の年度別推移

1 ばい煙発生施設数の年度別推移

種 類 \ 年 度	19	20	21	22	23
ボ イ ラ ー	1,977	2,002	2,021	2,052	2,064
金 属 溶 解 炉	167	167	177	175	178
金 属 加 熱 炉	168	172	171	171	173
焼 成 炉 ・ 溶 融 炉	72	78	78	75	71
乾 燥 炉	100	100	96	94	96
電 気 炉	22	23	23	23	23
廃 棄 物 焼 却 炉	57	58	57	54	53
銅・鉛・亜鉛精錬用施設	3	3	3	3	3
塩素・塩化水素反応施設	66	58	59	59	57
ガ ス タ ー ビ ン	83	89	87	87	86
デ ィ ー ゼ ル 機 関	276	280	282	282	287
そ の 他	53	54	57	63	63
合 計	3,044 (100)	3,084 (101)	3,111 (102)	3,138 (103)	3,154 (104)

注 () は、19年度を100とした指数である。

2 燃料使用量の年度別推移

(単位：千 kL)

燃料の種類		年 度				
		19	20	21	22	23
A	重油	206 (100)	197 (96)	188 (91)	198 (96)	186 (90)
C	重油	517 (100)	384 (74)	190 (37)	178 (34)	365 (71)
	原油	328 (100)	237 (72)	75 (23)	130 (40)	446 (136)
	石炭等※	880 (100)	888 (101)	500 (57)	604 (69)	694 (79)
小	計	1,931 (100)	1,706 (88)	953 (49)	1,110 (57)	1,691 (88)
	灯油	296 (100)	269 (91)	307 (104)	330 (111)	289 (98)
	軽油	348 (100)	317 (91)	314 (90)	336 (97)	325 (93)
	ガソリン	548 (100)	524 (96)	541 (99)	552 (101)	526 (96)
合	計	3,123 (100)	2,816 (90)	2,115 (68)	2,328 (75)	2,831 (91)

注 1 この表は、石油連盟及び県内事業所の資料を基に集計したものである。

2 () は、19年度を100とした指数である。

3 石炭等は、石炭、コークス及び石油コークスの使用量をそれぞれ重油相当に換算し、これらを合計した量である。

3 自動車保有台数の年度別推移

(単位：台)

用途、種類		年 度				
		19	20	21	22	23
貨物用	普通車	28,730	27,597	26,624	26,262	26,076
	小型車	46,963	44,901	43,083	41,650	40,690
	被けん引車	935	958	908	903	932
	軽自動車	97,380	96,200	94,701	93,299	92,459
乗合用	普通車	828	811	813	824	813
	小型車	1,425	1,383	1,353	1,346	1,322
乗用	普通車	150,539	150,420	152,643	155,204	158,795
	小型車	300,370	294,391	289,158	284,184	281,671
	軽自動車	210,608	219,470	225,896	232,313	239,377
特種用途車		19,636	19,412	18,133	18,162	19,435
二輪車		20,274	20,622	20,782	20,797	20,585
総数		877,688	876,165	874,094	874,944	882,155

注 北陸信越運輸局富山運輸支局調べによるもので、それぞれ年度末現在の台数である。